

火災と原子力災害

▶ 火災が発生したら

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

■ 初期消火の3原則

① 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

② 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用し、その後水をかける。

火元別 初期消火の コツ

油なべ

水をかけるのは厳禁。消火器を使用する場合は必ず距離をとって消火する（油のはね返りを回避するため）。消火器がなければぬらしたバスタオル等をかぶせる。

ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険がある。まずコードをコンセントから抜いて消火を。

カーテン・ふすま

引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

- 初期消火する場合は必ず自身の避難する方向（出口）を確認して消火する。
- 最初は火元から距離を取って消火する。



③ 早く逃げる

- 天井高まで火が達した場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、煙を吸わないようになるべく低い姿勢で鼻と口を服やハンカチでふさぎながら避難する。

▶ 原子力災害時の避難及び屋内退避

原子力災害時は、公共機関からの正しい情報や指示を待って、あせらずに落ち着いて行動しましょう。

家の中に入る「**屋内退避**」が安全への第一歩です。※

※万が一、原子力発電所から放射性物質の放出があった場合、屋外で行動していると、被ばくの危険が高まるおそれがあるからです。
※あわてて皆が一斉に遠くへ避難しようとする混雑や事故などを招き、かえって危険が高まるおそれもあります。

■ **屋内退避** 「屋内退避」の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物の中に入って、被ばくを防ぐようにしましょう。

1 自宅や職場、公共施設など、近くの建物（屋内）に入りましょう。

2 ドアや窓をすべて閉めましょう。

3 換気扇を止めましょう。
※外気を取り入れないタイプのエアコンは屋内退避中でも使用できます。
（ご家庭のエアコンのタイプをご確認ください。）

4 外にいた人は、手と顔をよく洗いましょう。

5 食品を密封した容器に入れたり、ラップをしきましょう。

6 念のため、飲料水を密閉容器に確保しましょう。



！ 特に指示があったときは、外で着ていた服を脱ぎ、ビニール袋に入れ、袋の口をしっかり閉めてください。

！ 特に指示があったときは、シャワーを浴びて洗髪してください。

コンクリートの建物への 屋内退避がより安全です

木造家屋

- 吸入による内部被ばくを、四分の一程度に抑えることができます
- 外部被ばくを、10%程度減らします。



コンクリートの建物

- 吸入による内部被ばくを、二十分の一程度に抑えることができます。
- 外部被ばくを、40%程度減らします。



■ 避難が必要になったら

避難（一時移転）の指示が出たら、あわてずに指示内容をよく確認し、指定された場所へ避難してください。

正しい情報を入手しましょう

市・県からテレビ、ラジオ、防災行政無線、メールなどの手段により避難指示が発令されます。

放射性物質から身を守りましょう

避難の際は、脱衣の簡単な服を着用し、マスクか水で濡らしたハンカチで口や鼻を覆うなどして、汚染や放射性物質の吸い込みによる内部被ばくを防ぎましょう。

ガスの元栓をしめ、 電気のコンセントを抜きましょう

戸締まりも忘れないようにしましょう。

自家用車やバスなどで避難しましょう

自家用車による避難のほか、集合場所に集合し、県や市が手配するバスなどで避難しましょう。また避難の際は近所に声をかけましょう。

落ち着いて
対応しましょう！

